

「Team Noah HONDA CIVIC TCR」 他車との接触によりリタイア



ENEOS スーパー耐久シリーズ 2022 Powered by Hankook に参戦する「Team Noah HONDA CIVIC TCR」は、11 月 26~27 日に鈴鹿サーキット(三重県)で開催されたシリーズ第 7 戦(最終戦)「SUZUKA 5 時間耐久レース」の ST-TCR クラスに参戦。残り 1 時間 20 分を切った 81 周目にスピンを喫した車両との接触により足回りを壊しリタイア。残念ながら今季 5 勝目はならなかった。

福岡に本拠を置く Team Noah(代表: 清瀧雄二)は、“九州に元気を！ 九州のモータースポーツにもっとワクワクを！”を合言葉に九州のレーシングチームとして 2018 年より S 耐にフル参戦。車両はホンダ・シビック TCR で、今季は昨季に続きクラスチャンピオンを獲得。今回のドライバーは”J”、蘇武喜和、霜野誠友、和田慎吾の 4 名で臨んだ。ST-TCR クラスは今回 2 台の出走で、全体で 9 つのクラスに 57 台がエントリーした。鈴鹿は日本を代表する国際サーキットで、テクニカルな区間と高速区間が盛り込まれたチャレンジングなコース。今季開幕戦ではクラス優勝を遂げており、2 年連続チャンピオン獲得年の最終戦を優勝で飾りたい。

25 日に行われた専有走行はアクシデントによる赤旗中断も多く満足な練習走行はできなかつたが、ベストタイムはクラストップの 97 号車シビックと 0 秒 370 差で総合 21 位につけた。26 日朝に行われたフリー走行では前日のベストタイムを上回ることができず総合 23 位。そして午後の予選は A、B ドライバー 2 名のベストタイム合算で争い、初めて A ドライバーに登録された”J”と蘇武のベストタイム合算の結果、総合 24 位、クラス 2 位となった。また霜野、和田も基準タイムを難なくクリアした。

27 日の決勝レースは、10 時 49 分にグリーンシグナルが点灯しスタート。グループ区分の関係でグリッドは 20 番に繰り上がり、まずは開幕戦以来の参戦となった霜野がオーブニングラップで 2 台をかわしクラストップに順位を上げた。さらに 2 番手との差を広げていくが、2 度にわたるセーフティカー(SC)導入もあり、せっかく築いた 2 番手との距離はそのたびに縮まってしまった。

それでも鈴鹿で育った霜野はクラストップを守って走行。スタートから 1 時間半ほどが経過する頃、この日 4 回目の FCY から SC が導入され、このタイミングでクラス 2 位の 97 号車シビックがピットイン。霜野も次の 30 周でピットインして”J”に交代。しかしこのタイミングでトップが入れ替わってしまった。ジェントルマンドライバーである”J”は、レースの 20% 以上をドライブしなければならない。最終戦独特のムードの中で、”J”はステディに 1 時間の周回をこなし 53 周でピットイン、和田に交代した。

クラストップの 97 号車シビックは 67 周でピットインし、元 F1 ドライバーの中野信治選手に交代し逃げ切りを図った。しかし和田も離されまいとドライブ。最後のステントで逆転優勝を狙う作戦だったが、最後のドライバー交代を控えた 81 周目の 2 コーナー先で和田の目の前を走行していた車両が単独スピン。和田は避けようがなく 2 台は接触し足回りを壊して動けなくなり、その場でリタイアとなつた。レースは残念な結果に終わったが 2 年連続チャンピオンを獲得し、チーム全体もレベルアップした一年だった。

“J”「今年 S 耐にデビューして富士、もてぎと走らせてもらいました。大好きな鈴鹿は、最終戦ということもあり本気で走っている人たちの間で走ることができ本当に良い経験になりました。この経験を来年にも生かしていきたいです。オフには練習でスキルを、そしてメンタル面ももっと鍛えていきたいと考えています。今年はいろんなことが経験できました。一年ありがとうございました」

蘇武喜和「アンカーとして待機していましたが、乗れなかつたのは残念。久しぶりの全クラス混走で最終戦鈴鹿ということで、みんなハイテンションな状態だったので気をつけないといけないと思っていたましたが、これもレースかなと思います。たまたま乗つてたのが和田選手だっただけで、僕や他のドライバーだった可能性もありますしね。和田選手に怪我がなかつたのが幸いです」

霜野誠友「チームからもなるべく差をつけてほしいと言われていたので、最大 15 秒ぐらい差をつけていたでしょうか。ただ FCY や SC でそれもチャラになって、やはり荒れましたね。木曜日からいつもと何か違うソワソワしたものを感じていたので、僕らに何も起きなければいいなどは思っていましたし勝つて終わりたかったのですがリタイアは残念です。また頑張ります」

和田慎吾「目の前を走行していた車両が単独スピンしたところで避けられませんでした。開幕戦以来の S 耐でしたがペース的にも良く走れていたしできるところはやつたかなというところですが。最後に逆転を期待して蘇武選手にバトンを渡したかったのですが、それができなかつたのが一番悔いの残るところです。来年もぜひ、またチームに貢献できるような走りをしたいです」